

テーマ：

神の法

ザコン ポージイ

Закон Божий

《十字架について》

私たちは、自分たちのことをハリスチアニンと言います。なぜならば、神の子であるイイスス・ハリストスが私たちに教えた通りに神を信ずるからです。イイスス・ハリストスは、私たちに正しく神を信ずることを教えたばかりでなく、罪と永遠の死から私たちを解放し、救ってくれました。

神の子であるイイスス・ハリストスは、罪深い私たちへの愛ゆえに人間となって天より降り、私たちの罪を滅ぼすために十字架にて死に、三日目に復活しました。

このようにして罪のない神の子は、全人類の罪のために十字架にて苦しみを受け、葬られることによって罪ばかりでなく、死にも打ち勝ち、死人のうちより復活したことによって十字架を罪と死に打ち勝つ武器としたのです。

イイスス・ハリストスが死に打ち勝ったことにより、罪の肉体を着ている私たちはこの世において一度死にますが、最後の審判において新たな肉体を着て復活し、永遠の死をより免れ、神との永遠の生命に入ることができるのです。

十字架は、ハリストスが罪と死に勝った武器であり印であります。

問題は、私たち自身の選択です。悪の権力、即ち罪と死から免れたい者は、ハリストスに従い、ハリストスを信じ、ハリストスと共に生きる道を選ばなければなりません。ハリスチアニンと呼ばれる私たちが身体に十字架を掛け、祈禱において十字の印を描くのは、このためです。

十字の印は、私たちに大いなる力を与え、悪に打ち勝ち、善を行うことを可能にしてくれます。ただ、十字を描くときは、正しい十字の形を急がずに描くべきであることを忘れてはいけません。さもないと、それは十字の印ではなく、単なる腕を振り回している運動に過ぎません。このような正しくない十字の描き方は、悪魔を喜ばせます。なぜならば、このような行為は、神に対する不注意で不遜な態度の表れであるからです。また、これは冒瀆の罪に当たります。

ハリスチアニンは、祈禱の始めにおいて、祈禱の最中において、祈禱の終わりにおいて、聖なるものに近づくとき、聖堂に入るとき、イコンに接吻するとき、聖堂を出るとき、悲しみにおいて、喜びにおいて、人生のさまざまな場面において十字を描くことができます。

ナチャーリヌイ クレスト

(※洗礼のときに受ける十字架は**нательный крест**と言います。これは「身体の上の十字架」という意味で、肌の上に掛けるものです。装飾品のように、服の上に掛けるものではありません)。